

子どもを真ん中にした地域ぐるみの学校支援で、学校が元気に！地域が元気に！

とんぐい村の こみ・すく通信

令和3年3月25日発行 第33号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その19>

「いのちの時間を考える」授業

更別中央中学校3年生が3月9日に、更別村診療所の所長であり、さらべつほーぷの代表でもある山田医師に來校いただき、「生と死から～どう生きるか～」について学びました。

【死について】

山田先生が実際に診た患者Mさんのお話をしていただきました。Mさんは、末期のがんで余命6ヶ月と宣告され、訪問診療を希望し山田先生のもとへ。登山が趣味で、大好きな十勝の山を毎日眺めながら過ごしたいと中札内村に引っ越してきて、その矢先のがん発症でした。最後の2か月半は奥様との大事な時間を自宅で過ごされ、訪問看護師さんから贈られた桜の花に感激し、2月中旬に息を引き取られたそうです。この事実胸が締め付けられました。

この「死」についての事例は、ご本人から「地域の子どもたちのために、私の人生が役立つなら」と承諾をいただいたものです。



【生について】

出産に関わるドラマのシーンを見せていただきました。身ごもったお母さんが「自分の命より大切なもの(子どもの命)がある」と話していたシーンが大変印象的でした。



生や死にも一つ一つのかげがえのない物語があります。あなただけの物語を大切に育ててほしい。

皆さんのことを大事に思い、皆さんの幸せを心の底から願っている人がいて、見守ってくれています。それが、困難に立ち向かう力を与えてくれます。

村の特産品「さらべつさんうどん」を学ぶ

更別中央中学校1年生が3月16日に、地域おこし協力隊の福島さん、高津さんにご指導いただき、「さらべつさんうどん」打ち体験をしました。また、栄養教諭である重松先生から、うどんの原料である「小麦粉」について学びました。

感染症予防のため、うどん打ちは1年生を3班に分け少人数で体験。また、例年であれば調理をして、うどんを味わうのですが、今年は打った生うどんを家庭に持ち帰りました。



【うどん打ち体験 二人の地域おこし協力隊員が指導】

更別産小麦粉「きたほなみ」を原料にうどんを打つ。もちもちの麺になります。



【小麦粉について学ぶ 重松栄養教諭から】

小麦の種類や用途、食料自給率、地域消費を学ぶ。「きたほなみ」のことも勉強しました。

認知症の方が暮らしやすくなるために

更別中央中学校1年生が3月18日に、保健福祉課保健師の三浦さん、佐藤さんにご来校いただき、認知症サポーター講座を受けました。

〇×クイズをして認知症のことを主体的に理解し、ビデオを見る中で認知症の方への対応の仕方を学びました。最後に「更別村で認知症の方が暮らしやすくなるために」を考え、生徒からは「みんなが優しく接する」などの考えが出ていました。



認知症の方には、ちょっとした手助けが大切です。